

会 議 録

1 会議名

第1回上越市総合計画審議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 審議会の運営等について（公開）

① 審議会の運営について

② 審議会 開催計画（案）について

(2) 上越市の現状と課題について（公開）

(3) 意見交換（公開）

3 開催日時

令和8年5月26日（火）午前10時00分から12時10分まで

4 開催場所

上越市役所第一庁舎4階 401会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：小林晃彦、竹内浩行、安藤知子、土田了輔、林泰成、原田正則、石野和実、
徳道茂、中條美奈子、西山薫、平井隆志、横田朋巳、渡邊隆、渡邊長芳、
五十嵐めぐみ、岩井文弘、土屋郁夫、大滝利彦、草野久海、佐藤睦子、
宮崎俊英、横田清士

・ 事務局：石井総合政策部長、石黒総合政策課長、内山副課長、太田係長、畑山主任、
渡辺主任

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

委員を代表して小林晃彦委員に委嘱状を交付

(3) 市長あいさつ

【小菅淳一市長】

皆様におかれましては、大変ご多用の中、上越市総合計画審議会委員をお引き受けいただき、心から感謝申し上げます。また、日頃から市政運営に、多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

令和４年に市民の皆様と共に策定した「第７次総合計画」は、今年度で前期計画期間の４年間が終了する。

この間、全国の自治体、そして当市においては、人口減少や少子高齢化の影響がますます顕在化するとともに、自然災害の激甚化・頻発化や物価高騰、都市基盤の老朽化など様々な課題が深刻化している。

市では、こうした課題や社会の変化に的確に対応していくため、現在、「みんなの笑顔」「産業いきいき」「こどもと家族を真ん中に」「多様な学び」の４つの視点に基づき、政策・施策の重点化を図りながら、持続可能なまちづくりに向けて、鋭意取組を進めているところである。

この度策定する後期計画についても、今ほどの４つの視点を踏まえながら、市民の皆様と共に、将来都市像に掲げる「暮らしやすく、希望あふれるまち」の実現を目指し、まちづくりの拠り所となる計画にしたいと考えている。

本日は、まちづくりに取り組む各種組織や団体、ＮＰＯの代表の方々、そして専門的知見を有する方々からお集まりいただいている。皆様におかれましては、日々の取組や豊かな知識・経験から、このまちの未来に向けて是非とも忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、委員の皆様のご健勝、ご多幸、さらなるご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

(4) 委員紹介

資料１「上越市総合計画審議会委員名簿」の順に委員を紹介

(5) 会長・副会長の選任

会長に林泰成委員、副会長に小林晃彦委員を選任。会長、副会長あいさつ。

【林泰成会長】

委員の立場によって見えてくるものが違うと思うため、それぞれの立場から、ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴したい。

【小林晃彦副会長】

活発で充実した議論を展開し、より良い基本計画が策定できるよう、会長を一生懸命補佐してまいりたい。

(6) 諮問

市長から審議会に諮問

(7) 議事

ア 議題(1) 審議会の運営等について

【事務局（太田係長）】

資料 2、資料 3、資料 4 により説明。

【土屋郁夫委員】

今後の市民参画の取組として行われる意見交換会とグループインタビューの結果は、第 2 回の審議会でどのような形で示され、市民にはどのように公開されるのか。

【事務局（石黒課長）】

こういった属性の方からどのような意見が出たか分かる形で資料とする。また、意見交換会の結果はホームページ等で公表する予定である。

【土屋郁夫委員】

議論を市民が知る機会が少ないことから、開かれた審議会とするため、審議会資料や委員間の意見交換が分かる公開ウェブの仕組みを設け、市民にも議論の過程が見える化すべきではないか。

【事務局（石黒課長）】

意見交換会では、審議会で提示した資料を分かりやすくするなど工夫をしながら、まちの現状や課題をお伝えするとともに、市民の皆さんが意見交換を行い、議論や意見が磨かれるような開催方法で意見をいただく予定である。また、様々な活動をしている団体や各分野の皆さんから専門の話や地域の課題などをお聞きするグループインタビューを実施するとともに、広く市民の皆さんから意見をいただくため、10 月にパブリックコメントを実施する予定である。手法を工夫しながら市民の皆さんから意見を頂戴したいと考えている。

【土屋郁夫委員】

パブリックコメントを実施することは良いが、パブリックコメントに至る前に一度、市民の意見を求めるべきだと考えている。また、意見交換会を開催しても、関

心のある限られた方だけが出席するということが多いため、周知の仕方も考えていただき、より良い意見交換会にしていきたいと思います。

【林泰成会長】

いただいた意見について考慮しながら進めていただくよう事務局にお願いするが、基本的には事務局案のとおり進めるということによろしいか。

【土屋郁夫委員】

しっかり市民参画ができる形を整えていただきたい。

【林泰成会長】

それでは、市民参画についての意見を踏まえ、基本的には事務局案のとおり進めさせていきたい。

イ 議題(2) 上越市の現状と課題について

【事務局（畑山主任、渡辺主任）】

資料 5-1、5-2、5-3、別冊 1、2 により説明。

【土屋郁夫委員】

市民の声アンケートの自由記述について、報告書には、一部の意見しか掲載されていない。意見は、不適切なものを除き原文のまま公開すべきではないか。

【事務局（石黒課長）】

お一人お一人の意見を大事にすることは当然認識している。一方で、報告書に全ての意見を原文のまま掲載すると内容が煩雑になり、読みづらくなるため、まとめさせていただいた。

【土屋郁夫委員】

やはり生の声は非常に大事だと思う。学術的な見解をお持ちの方がいらっしゃるので、学術的な面から見て、このまとめ方で問題ないかご意見をいただきたい。

【安藤知子委員】

土屋委員の意見はもっともだと思う。一方で、アンケート自体が全市民の意見を代表しているとは限らないので、自由記述をどう読むかは難しい。はっきり意見を述べた方の意見が全体を代表しているかのようにになってしまう危険もあるため、様々な形で意見交換を重ねていく方がよいと考える。そのため、全てを原文のまま公表する必要はないが、アンケートでどのような意見があったかは確認できる状態

にしておくべきである。全体としての意見の傾向を掴むことが重要だと感じている。

【土田了輔委員】

自由記述の読み取り方は難しいと考えており、基本的には安藤委員と同じ意見である。アンケート結果を PDF で公表してもらえれば、AI に読ませて個人的に分析することも可能であるため、そのような形で公表されるのであれば良いと思う。

【土屋郁夫委員】

生の意見を何らかの形で提供していただきたい。読み取り方が一番大事であり、全ての意見を見たうえで、市のまとめ方が妥当であると判断するためにはデータがなければ分からない。今後の市の調査については、考慮いただきたい。

【林泰成会長】

意見があったということで、引き続き検討いただきたい。

【石野和実委員】

市民の声アンケートについて、10 代から 40 代ぐらいまでの回答者が少なく、比較的高齢者の回答率が高いことがアンケート結果に大きく関わってくるのではないかと思う。アンケートの回答率にこれだけ差が出ることについては、どう考えているか。

【事務局（石黒課長）】

大きな課題と捉えている。今回の計画策定にあたっては、アンケートで大きなトレンドを把握したいと考え、ウェブ回答を使ってできるだけ簡単に回答できるよう工夫した。若い皆さんの声をどう把握するかについては、今後、グループインタビューや意見交換会のほか、総合政策課として若者の活躍支援に関する事業も所管しているため、そうした場で若い皆さんの意見を把握できるよう工夫していく。

【石野和実委員】

回答者の構成比率によってアンケート結果が現状と異なっているのではないかと思う。アンケートの取り方を工夫し、現状の課題がどこにあるのかをより把握できる資料を作成すれば、これからの上越市を変えていけるのではないかと思う。

【事務局（石黒課長）】

今回のアンケートはクロス集計を行い、年代ごとの集計もしているため、参考としていただければと思う。また、当課は地方創生・人口減少問題も所管しており、

人口減少問題に特化した戦略やアンケート調査の結果もある。それらを合わせて分析し、計画に反映していきたいと考えている。

【安藤知子委員】

今回の現状と課題の報告は、市民の声アンケートを主な根拠としたものだと思うが、上越市で他の計画を策定するにあたり実施したアンケートの結果や参考資料は参照されているのか。

【事務局（石黒課長）】

総合計画の評価検証は、昨年度から全庁的に実施しており、各課が把握している施策の実施状況や課題、各種調査、データを踏まえて整理したものである。また、今年度、改定を予定している他の計画もあるため、庁内の各課と情報を共有しながら改定作業を進めていく。

【安藤知子委員】

課題や現状を把握する際に、他のアンケートの結果についても言及いただけると、課題の把握がより進むのではないかと感じる。

ウ 議題(3) 意見交換

【林泰成会長】

事務局の説明を踏まえ、委員の皆さんから順番に意見を頂戴したい。

【安藤知子委員】

今後の政策の中で、高齢者の交通手段やシティプロモーションを意識しなければならないと考えており、アンケート結果からもその傾向を確認できた。子育て環境では、部活動の地域移行に伴う学校と地域の連携の在り方が手探り状態で、行政支援や担い手確保が必要と感じている。また、シティプロモーションについては、上越市は子育てしやすい自治体であるが、情報発信の仕方が下手だと感じている。若い人たちに魅力があることを上手に発信すれば、若者の参画意識も高まるのではないかな。

【土田了輔委員】

上越市は子育てをするには魅力的な地域であり、情報発信が上手くできればいいと考えている。観光についても、資源自体は他地域と大きく変わらず、発信方法やまちづくりの工夫次第で輝けるまちになれると思う。また、今いる若者を上越市に

つなぎ止めることと外部の人をどうやって呼び込んでいくかが今後の課題になると思う。

【原田正則委員】

新潟県の地域振興局に所属しており、県職員は転勤で上越市に来る人が多く、かなり人気の高い職場で住みやすいという声をよく聞く。市域全体に様々なバリエーションがあり、それをどのような形で今後発展させるか、維持するかという点が大きな課題だと考えている。

【石野和実委員】

子育ての現場では、障害のある子どもを抱える家庭などが困難な状況にあり、親子ともに支援を必要としている状況がある。若者世代や子育て世代がもっと住みやすくなるような施設や環境が整っていくと良い。

【徳道茂委員】

NPO 法人上越地域活性化機構に所属しており、IT 関連で、産官学の連携として自治体や大学の先生方と一緒に様々な課題に取り組んでいる。今は社会全体でデジタル化、いわゆる DX といった言葉が飛び交っており、どのように皆さんに DX を広めていくかが大きな課題であり、人口減少対策の一つとして有効だと思っている。人材育成に力を入れており、小中学生を含めてデジタル人材の育成に取り組んでいるが、県外の大学に進学すると技術を身に付けても戻ってこないことが多く、県外企業に負けないように、デジタルを活用した産業クラスターの創造を目指している。私たちの団体には、県外からの会員もいるため、知識をブラッシュアップしながら、課題について前向きに意見を述べたいと考えている。

【中條美奈子委員】

市民の声アンケートの結果について、出産や子育てがしやすいと感じる市民の割合が低いことに衝撃を受けた。昨年、こども計画を策定した際に示されたアンケート結果は、子育て世代の思いが反映されていた。全世代を対象としたアンケートでは、高齢の方の認識や他地域の手厚い支援情報の影響が結果に反映されているのではないかと思う。子どもの減少により将来への不安感が生まれ、住み続けたいと考える人の減少につながると思うため、あらゆる世代が希望を持って暮らせるような総合計画を考えていきたい。

【西山薫委員】

上越商工会連絡協議会に所属している。かつて13の区に各商工会があったが、昨年4つに集約された。人口減少と物価高が地域の商工業に大きな影響を与えており、特に人口減少が大きな問題で、消費者の活力もなくなっていることから、どのように対応していくか一緒に考えていきたい。

【平井隆志委員】

総合計画の見直しにあたり、どこまでを見直しの対象にするのか、現在の目標設定と現場の感覚が合っているのか、施策の柱が現在のままでいいのか整理する必要があると感じている。また、全施策に共通するまちづくりの課題（案）や人口動態の資料の位置づけを明確にし、関連する計画との整合性を踏まえ、スケジュールが短い中で、効率的に議論を進める必要がある。

【林泰成会長】

質問については、後でまとめて回答いただきたい。

【横田朋巳委員】

義務教育の子どもが天候不良時に自力で通学できず、保護者の送迎が常態化していることを問題と感じている。個々の施策ごとに検討をするのではなく、施策を横断して共通する問題があるという認識を持ったうえで施策を検討していただきたい。また、子育てに関する情報について、若者世代は、都市部と上越市の情報が混在し切り分けできない部分があり、上越市からの情報発信が非常に少ないと感じている。

【渡邊隆委員】

人口減少に加え、AIの普及による社会変化を踏まえ、第7次総合計画を見直す視点が必要だと思う。また、大きな方向性を決定し実行していく中でも、小さくても大切なものを残していくという考えも必要である。現在、高校生にとって学校や家庭以外の「第三の居場所」の整備に取り組んでおり、高校生という感性が豊かな時期に上越市に愛着とふるさと意識を持てる環境づくりが、将来のU・Iターンにつながると考えている。

【渡邊長芳委員】

町内会長連絡協議会に所属している。やはり、人口減少が一番大きな問題だと感じている。各町内会話を聞いても、地域の人口が減り、高齢者が施設に入ると空き家が増え、地域社会の活動やコミュニティが成り立ちにくくなり、町内会の維持が難しくなっているという意見が多くある。こうした状況は、今回の審議会の審議

案件とは少しずれるかもしれないが、市全体の課題のため、未来に向けた施策をお願いしたい。

【五十嵐めぐみ委員】

仕事で地域と店舗をつなぐ立場から日常的に地域の皆さんと話をする機会が多く、様々な地域活動に参加し、困りごとに寄り添いながらまちづくりを行っている。日ごろの暮らしの中で、地域の子どもたちを見守り、支えたいと考えており、その視点から総合計画の改定に携わりたいと思っている。

【岩井文弘委員】

上越市には他の地域と比べて優れている面もあれば、課題もあると感じている。教員やカウンセラーの経験から、子どもの減少により、子ども同士の関わりが減ったことで問題が生じているのではないかと感じているため、子育てや少子高齢化に重点を置いた計画としたらどうかと考えている。また、少子高齢化が社会全体に様々な問題を投げかけているので、そこを解決すれば多くの課題が改善されるのではないかと考えている。

【土屋郁夫委員】

AI への対応は必ず必要になるが、計画にどう織り込むかは難しいと感じている。オープンで開かれた議論の場が必要だと考えており、委員の皆さんは、様々な経験やつながりを持っており、若い世代の声を聞いている方や、事業を営んでいる方もいるので、ぜひオープンに議論できる仕組みを作っていただきたい。また、若い人たちの意欲が向上するような施策を盛り込んでほしいと思っている。

【大滝利彦委員】

地域防災力低下の、一番大きな要因は人口減少と過疎であり、上越市では中山間地と新興住宅地で状況が違う。新興住宅地では人口が増加している一方、住民同士のつながりが弱く災害時の共助が課題であり、中山間地は経験や知識はあるが、人口が減少し、人手不足が課題である。このように、同じ市内においても地域で課題が異なることから、この機会に分析を行い、自主防災組織や町内会の力を見える化できないかと考えている。

【草野久海委員】

現在、定住支援コーディネーターという仕事をしている。人口減少が全国的に進む中で、人口のV字回復は難しいが、進行スピードを少しでも緩められればと考え、

外部向けの情報発信や暮らしの基盤情報の整備を行っている。上越市は子育てがしやすいと個人的に感じているが、情報発信がうまくいっていない部分があると思うため、自分自身も含めて情報発信の仕方を考えていきたい。

【佐藤睦子委員】

委員の皆さんの話を聞いて、その熱い思いが各部署の取り組みと合わされれば今後につながるのではないかなと思う。アンケートの調査結果を読んで改めて感じたのは、外国人を含めた共生社会の推進の重要性である。外国人との交流だけではなく、その人たちとどう折り合いをつけるかが問題であり、若者の生き方にも関わってくると思っている。

【宮崎俊英委員】

成果指標について、すでに最終目標を達成している項目は、これからどう扱うのか。また、人口減少が進む中で必ずしも右肩上がりに設定する必要はないのではないかな。文化の担い手がいないうちで、我々も中学生や高校生、大学生をどう担い手にするかを考えている。特に、大学の存在意義を改めて考える必要があり、新潟県の第三の都市だから大学があるのではなく、歴史的な理由や市民の願いなどによって上越市に大学があると考えている。大学は教育力の向上に寄与し、移住したいと思う人を呼び寄せる面や労働力としての側面もあるため、大学があることの大事さを政策の中に入れてもいいのではないかなと思っている。

【横田清士委員】

水道水の供給について、アンケートに記載されているが、私なりの解釈をすると、昨年は大変な渇水であり、改めて最重要なインフラの一つとして市民の皆さんの認識が高まり、必要性和重要度が非常に高まったと感じている。断水に至らなかったのは、大変なレジリエンス力であり、こうした仕組みを市内でもっと作っていけば、住んでいる方がさらに住みやすくなり、市外からも住みたいと思ってもらえると思う。

【竹内浩行委員】

上越市の農業は担い手不足であり、農業法人でさえ解散に追いやられる時代になっている。60歳が定年の時には、退職した方たちが農業法人の担い手であったが、現在は、80、90歳の方がいまだに役員を務め、後継者を育てきれていないという問題がある。結果、農業法人が解散し、農地が耕作放棄地のようになっているところ

もあり、中山間地ではさらに深刻な問題になっている。総合計画には農業振興の施策も掲載されているため、力になればと思っている。

【林泰成会長】

会議の終了時刻を超えたため、副会長と会長の発言は省かせていただく。また、各委員からの質問にはまだお答えしていないが、次回に回答する形でもよろしいか。

【事務局（石井部長）】

平井委員からの審議会の議論における大きな観点に関する質問については、この場で回答させていただく。今回、時間がない中でどこまで計画に手を入れるかという趣旨の質問だと思う。この総合計画の根幹部分である基本構想では、4年前に将来都市像として「暮らしやすく、希望あふれるまち上越」を掲げた。これは、今の子どもたちが大人になって社会で活躍する未来を見据えた上で、計画する期間よりもさらに一歩先の将来、2040年頃を目安に将来のありたい姿の実現に向けて今どういった手を打つ必要があるかという思考で作成したものであり、基本的にこの部分は変わらないと認識している。後期基本計画の策定では、このありたい姿を実現するためにどのような手段と施策が必要かを逆算し、前期基本計画の評価検証を踏まえたうえで必要に応じて施策や重点テーマ部分、KPIなどを軌道修正したいと考えている。

(8) その他

【事務局（石黒課長、内山副課長）】

次回の開催日程や会議内で発言できなかった委員及び欠席した委員の意見の集約方法に関して連絡。

(9) 閉会

9 問合せ先

総合政策部総合政策課企画調整係

TEL：025-520-5626

E-mail：sou-seisaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。